

○みんな仲善く——互に手をつないで、圓心へ向つて進む。
○食べに來い——右手で鳩を招き寄せる姿をしながら後退する。

一一

○ぽつぽつぽ——蹲んで體前で拍手する。

○鳩ぽつぽ——體の左前で、掌を合はせて鳩の嘴をつくり、開いたり閉ぢたりして鳩の餌を食べる表現をする。

○豆はうまいか——前の「ぽつぽつぽ」に同じ。

○食べたなら——「鳩ぽつぽ」の動作を體の右前で行ふ。

○一度にそろつて飛んで行け——兩手を側にあげ、軽く上下に振りながら、スキッピングステップで圓周を左に軽く跳ぶ。

(三) 注意

教師も児童も全く、鳩の心持になつて、無邪氣に、快活に行はねばならぬ。

兵隊さん

(一) 準備 一列圓形を作らせ、圓心に向かせる。

(二) 動作



一

○鐵砲かついだ——右肘を屈げ、手を握り肩に取り、左手を右腕に當てて右肩に鐵砲をかついだ様子をし、左足右足と二回スタンプする。

○兵隊さん——左足から三回足踏する間に左へ向く。

○足並そろへて歩いてる——前の鐵砲をかついだ姿勢で、左足から圓周上を勇ましく歩く。

○とつとことつとこ歩いてる——右手で喇叭を吹く様子をしながら、更に股を高く、足音勇ましく、同方向へ歩き續ける。

○兵隊さんは——拍手しながら、左足から圓心へ進む。

○きれいだな——拍手しながら、其の場で四回足踏する。

○兵隊さんは——拍手しながら、左足から後退する。

○大すきだ——直立して兩手を胸に當て、次に元氣よく手を上に擧げる。

二

○お馬に乗つた、——手を握り、甲を上にして前に下ろし、手綱を執つた様子をして、左足右足とスタンプする。

○兵隊さん。——左足から三回足踏する間に「右向け」をする。

○砂を蹴立ててかけて来る——スキッピングステップで、圓周上を進む。

○ぱつぱかぱつぱかかけて来る——手を前後に動かし、手綱を引く姿をして、スキッピングステップで元氣よく進む。

○兵隊さんは勇ましい——(一)の「兵隊さんはきれいだな。」と同じ動作をする。

○兵隊さんは大すきだ——(一)の「兵隊さんは大すきだ。」に同じ。

(三)注意

兵隊の行進する勇ましい様子を想起せしめ乍ら、快活にして元氣ある精神を養ふ。

ヒカウキ

(一)準備 一列圓形の側面向に並べる。

(二)動作

—

○ヒカウキ、ヒカウキ——両手を側にあげ、體を少し左に傾けて、左足から圓周に沿うて左へ軽い駆歩で進む。

○ラララララ、ラララ——次に體を右に傾けて、前の動作を続ける。

○あたまのまうへ——其の場で左へ一廻りする。

○おみやのまうへ——其の場で右へ一廻りする。

○どこへかいつた——圓心に向き、上を見て拍手しながら、駢歩足踏する。

二

○ヒカウキ、ヒカウキ、

○ラララララ、ラララ——(一)と同じ動作をする。

○むらからまちへ——兩手を上にあげ體を前に傾け、軽い駢歩で圓心へ進みながら、手を下におろし、更に前から上に擧げ、次第に體を起し、終りは少々後ろにそらす。

○まちからくもへ——手を下ろしながら體を前に屈げて駢歩で後退し、終に體を起し手を側にあげる。

○すがたをけした——(一)と同じ動作をする。

(三) 注意

イ、飛行機の飛ぶ爽快さを輕快に表現させる。

ロ、熟練したら自由の方向に行はせる。

ハ、兩手が隣生にふれると墜落するものとして取扱ふと興味を増す。



(一)準備 一列圓形に並べ、圓心に向かせる。

(二)動作

○山田の中の——左手で斜左上方を指し、直ちに下ろす。

○一本足の案山子——次に右手で「山田の中の」と同じ動作をする。

○天氣の——左足を後にひき、體を後ろに倒し、兩手を頭上に圓くあげる。

○よいのに——手を下ろし、左足を元にかへす。

○蓑笠着けて——右足を後にひき、「天氣のよいのに」と同じ動作をする。

○朝から晩までただ立ちどほし——拍手しながら、其の場で左から一廻りする。

○歩けないのか——手を腰にとり、左足を前に出して踵をつけ、元にかへし、次に右足で同様に行ふ。

○山田の案山子——兩手を側にあげ、左膝を屈げて一本足で立つ。終りに手と足とをおろす。

二

○山田の中の、一本足の案山子——(一)の動作に同じ。

○弓矢で——左足を後にひき、右手を前に伸ばし、左肘を後にひいて、弓を引く姿をする。

○威して——左足を元にかへして兩手を下ろす。

○力んで居れど——「弓矢で威して」の動作を反對に行ふ。

○山では鳥が、かあかと笑ふ——兩手を側に舉げ軽く上下に振りながら、圓周に沿ひ、左へ歩く。

○耳が無いのか——圓心に向き、左手を左耳の側に取つてすぐ下ろし、次に右手で同じ動作をする。

○山田の案山子——「力んで」と同じ動作をし、最後に右足を元にかへし兩手を下ろす。

(三)注意

無邪氣に面白く行ふ。

蝶々

(一)準備 一列圓形に並べ、豫め數人の蝶々を定め、他は腰を下ろし兩手で任意の花を作らせる。

(二)動作

一

○てふく／＼てふく、茶の葉にとまれ。茶の葉にあいたら櫻にとまれ——蝶々になつた者は、兩手を側

にあげ、上下に動かしながら、一呼間に二歩の軽いランニングステップで、花になつた兒の間を縫つて左の方へ

まはつて行く。「止れ」で花に止つて花となり、止られた者は蝶々になる。

○さくらの花のさかゆる御代に、とまれよあそべ、あそべよとまれ——新しい蝶々は、前と同様の動作で花の兒の間を縫つて行く。「止れ」で何れかの花に止つて、花と蝶々とが交代する。

○繰返し——全曲を繰返す間（三十二呼間）、花になつた者は、圓周上に蹲んで拍手する。蝶々になつた者は、圓内か又は圓外で自由に蝶々のとぶ姿をし、最後の「止れ」で圓周上の花と交代する。
以上を繰返し幾回でも行ふ。

(三)注意

イ、蝶と花との動作を工夫させる。

ロ、軽く靜かに行はせる。

雪

(一)準備 一列圓形に並べ、圓心に向ける。

(二)動作

前奏 一小節——四小節（八呼間）音に合はせて拍手する。

○雪やこんこ、霰やこんこ。降つては降つては、ずんずん積る——左足から圓周に沿うて左へスキップ

ングステップで進む。この場合前に舉げた足と反對の手を掌を上にして前に舉げ雪をうける様子をする。

○山も野原も——圓心に向ひ、左手を上をに舉げ、掌をひらひらとかへしながら下ろす。

○綿帽子かぶり——右手で前と同じ動作をする。

○枯木残らず——前の動作を両手でする。

○花が咲く——両手を側から上にあげて花をつくる。

二

○雪やこんこ、霰やこんこ。降つても降つても、まだ降りやまぬ——(一)の「雪やこんこ、霰やこんこ。

降つては降つては、ずんずん積る。」の動作に同じ。

○犬は喜び庭駆けまはり——互に手をつなぎスキッピングステップで圓の中心へ四呼間前進し、次に四呼間後

退する。

○猫は火燵で——手をはなし各々其の場を右から八つのランニングステップで廻る。

○まるくなる——左足をひいて靜かにひざまづき、両手を前について背を圓くする。

(三) 注意

イ、雪に對する喜を現はし、愉快に行はせる。

口、自由な方向に行はせてもよい。

春が来た

(一)準備 一列圓形に並べ、互に手を連ねさせる。

(二)動作

一

○春が来た、春が来た、どこに来た——左足から左へ三步前進し、左足でホップすると同時に、右膝を屈げて前にあげる動作を交互に四回行ふ。

○山に来た——左足から圓心へ三步前進しながら連手を次第に前から上にあげ、體をよく伸ばし、胸を張つて、右足を後にあげ左足でホップする。

○里に来た——右足から三步後退しながら次第に連手をおろし、右足でホップすると同時に、左膝を伸ばして前にあげる。

○野にも来た——両手を交叉して前から上にあげ側からおろしながら其の場で左から一廻りする。

二

○花が咲く——両手を側から頭上に圓くあげながら、圓周に沿ひ左足から左へ三步進み、次にホップする。



○花が咲く——兩手を側からおろしながら、前と同様に進み、ホップすると同時に兩手を體前で僅に交叉する。
○どこに咲く——「花が咲く、花が咲く、」の動作を繰返す。

○山に咲く、里に咲く、野にも咲く——「山に來た、里に來た、野にも來た」の動作に同じ。

三

○鳥が鳴く——左足から圓周を左に三步進み、兩手を側にあげながら右膝を屈けて前にあげ、左足でホップする。
次に三步進み兩手をおろし更にホップすると同時に兩手を側にあげる。

○鳥が鳴く、どこで鳴く——手をおろしながら、右足から前の動作を三回繰返す。

○山で鳴く、里で鳴く、野でも鳴く——「山に來た、里に來た、野にも來た。」の動作に同じ。

(三)注意

輕快な動作で行ひ、快活な精神を養ふ。

ひばり

(一)準備 十二三人を一組として、一列圓形を作らせる。

(二)動作

○ちいちく、朝から——手を隣生の肩にかけながら、一呼間に二回のランニングスタップで圓心に進む。

○ちいちく、日がてる——手を肩にかけたまま、次第に腰を下ろす。

○ちいちく、ちいちく、ちいち——頭を左右に囁くやうに、交互に四回動かす。

○ひばりはなきだす——互に手をつなぎながら、八歩後退して、元の位置にかへる。

○むぎ畠——両手を前から上にあげる。

二

○ちいちく、春の日、ちいちく、のどかだ、ちいちくちいちく、ちいち。高くのぼつた——(一)の「ち

いちく、朝から、ちいちく、日がてる、ちいちくちいちく、ちいち。ひばりはなき出す。」に同じ。

○あを天じやう——両手を側に舉げ、軽く振りながら、二回膝を屈伸する。

三

○ちいちく、ゆふもや、ちいちく、しづかだ、ちいちくちいちく、ちいち。畠におりて——(一)の「ち

いちく、朝から、ちいちく、日がてる、ちいちくちいちく、ちいち。ひばりはなき出す。」に同じ。

○日がくれる——両手を體前で交叉して上に舉げ、側から下ろしながら腰を下ろし、両手を合はせて頭の左側に

取る。



(三) 注意

無邪氣に且つ、長閑な氣分で行ふ。

かぞへ歌

(一) 準備 一列圓形の内面向に並べ、一二の番號をつけさせる。

(二) 動作

一

○一つとや——互に手をつないで、左足から圓内へ四歩進み、終りに手を軽く上にあげる。次の四呼間は拍手しながら後退する。

○人々忠義を——前の動作を繰返す。

○第一に——一番生と二番生と互に兩手を取つて、左へターンする。

○第一に——右にターンして元の位置にかへる。

○あふげや——互に左を通つて前進する。

○高き——新しく出逢つた者と、兩手を取つて軽く振りながら足踏する。

○君の恩——足踏しながら、掌を上と下にして拍手し、更に上、下を取り換へて交互に三回行ひ、次に相手と四



同打ち合はせる。

○國の恩——「君の恩」に同じ。

以下(十)まで(一)と同じ動作を繰返して行ふ。

(三)注意

平易な連続的動作により、リズム訓練をし、兼ねて國民的思想を養ふ。

汽 車

(一)準備 一組十四五人位にし、縦に一列に並べてかゝませる。

(二)動作

前奏 一小節——二小節(四呼間)

掌を向合はせ、兩手の指を開いて肘を屈げ、四回廻す間に立上る。廻し方はなるべく肘を伸ばすことなく、兩手を同時に汽車の滑り出す時のリズムで、大小緩急をつけて行ふ。

一

○今は山中、今は濱。今は鐵橋渡るぞと——前奏の手の動作を繰返しながら、一小節に四歩のサンニングス・ステップで、先頭の定める任意の方向に進む。

○思ふ間もなくトンネルの、闇を通つて廣野原——先頭の二人は止つて向合ひ、兩手をつないで高く舉げ、トンネルを作る。

三番生が先頭となり、以下續いてスキッピングステップでこのトンネルをくぐる。この場合は、スキップステップ一步毎に、前と同じ方法で手を廻す。

トンネルを作つて居た二人は最後につく。二番三番と歌曲が繰返される毎に、同じ動作が繰返されて、先頭が順々と代つていく。

(三)注意

イ、汽車のやうに活動的に動作し、團體的行動に慣れさせる。
ロ、よく揃つて行はせる。

氷 す べ り

(一)準備 二人で並び、體前で右手と右手、左手と左手をとる。

(二)動作

一

○すべれすべれ、みんな出てすべれ。今日にはちえう日本晴だ——二人共、左足から二呼間に一回のステップを交互に続けながら、任意の方向に滑つてゆく。



○風はさむいが——二人向ひ合つて、各々兩手を組み、肘を舉げて、左足を側に出し、右手を引き寄せ、更に左足を側に出し、右足を後に屈げて左足尖で一廻りする。

○氷はあつゐ。——「風はさむいが」の動作を反對に行ふ。

○山は白雪——二人で右手を組んで、スキッピングステップで一廻轉する。

○ぎんびやうぶ——手を離して、各自任意の方向にスキッピングステップで進み、新しい者と組む。

以下(二)も(三)も(一)と同じ動作を行つては、新しく相手を變へて續ける。

(三)注意

イ、氷すべりの軽快な動作を行はせ、巧緻的訓練をする。

ロ、人をかへて行ふても面白い。その場合は、最後の四呼間を各自任意の方向にスキップで進み、新しい相手と組む。

春の小川

(一)準備 十人位を一組とし、一直線に並べ、一二の番號をつけておく。

(二)動作

一

前奏 一小節——四小節(十六呼間)

其の儘曲を聴き、四小節の時に靜かに手をつなぐ。

○春の小川は、さらさら——直線のまゝ左足から左へ歩く。

○流る——左足を左へ出し、手を離し、次に兩手を左に動かしながら、右足尖を左踵の後に引く。

○岸のすみれやれんげの花に——「春の小川はさらさら流る。」の動作を右足から反對に行ふ。

○にほひめでたく、色うつくしく——連手して左端の者が先頭になり、左足から左へ廻つて圓を作る。

○咲けよ——手を離し、兩手を一度下におろし、前から上にあげながら、左足から四歩圓の中心に進む。

○咲けよと——足踏しながら、兩手を側方までおろし、隣生の肩にかける。

○ささやく——四歩後退しながら連手する。

○如く——連手を上下に軽く振りながら、足踏する。

一一

間奏 一小節——四小節(十六呼間)

先頭と最後の者とは手をはなし、他は連手のまゝで左に歩いて、始めの直線の位置にかへる。

○春の小川は、さらさら流る。蝦やめだかや、小鮒の群に、今日も一日ひなたに出でて——(一)の「春の小川は、さらさら流る。岸のすみれやれんげの花に、にほひめでたく、色うつくしく。」の動作に同じ。

○遊べ——一番生は、左足から四歩圓の中に進み、互に手をつなぐ。

○遊べと——二番生は四歩前進し、一番生の連手の下からくぐつて中に入り、両手を一番生の肩にかける。

○ささやく如く——(一)に同じ。

三

間奏 一小節——四小節(十六呼間)

前の間奏に同じ。

○春の小川は、さらさら流る。歌の上手よ、いとしき子ども、聲をそろへて小川の歌を——(一)の「春

の小川は、さらさら流る。岸のすみれやれんげの花に、にほひめでたく、色うつくしく。」の動作に同じ。

○うたへうたへと——連手を上にあげると同時に、左足を圓の中に踏み出してホップし、右足を後にあげる。

次に右足を後におろしてホップすると同時に、左膝を屈げて前にあげ、手を下におろす。これを繰返して行ふ。

○ささやく如く——(一)に同じ。

(三)注意

長閑な春の小川の情趣により快活優美な動作を行ひ、團體的行動になれさせる。

舟の旅

(一)準備 一列圓形に並べ、二の番號をつけておく。

(二)動作

一

○橋の上ゆく、繪日傘日傘——兩手で傘の柄を持ち、傘を圓の外側に倒して廻はしながら、左足から圓周を左へ歩く。

○岸の櫻は今花ざかり——次に後向きとなり、傘を持ちかへて廻しながら元の位置にかへる。

○ひらり——圓心へ向いて左手を上にあげ、掌をひらひらさせながら下ろす。

○ひらひら——次に右手で前と同じ動作をする。

○散りくる花を——兩手で前と同じ動作をする。

○乗せて過ぎ行く舟の旅——兩手を前にあげて前世の肩にかけ、左足から圓周上を左へ歩き、終りの三呼間に足を揃へて次に手をおろし一拍子休む。

一一

○花の村々祭のさかり——兩手を體前で交叉して、前から上にあげ側に廻はすと共に、左足からホップステップを交互にしながら、圓周に沿うて左へ進む。

○かぐら太鼓の音聞きながら——次に廻れ右して、前と同じ動作を繰返して元の位置にかへる。

○そよろそよそよ吹く春風に——左足を側に出し、両手を左から上にあげ、右に下ろしながら右足を引つける。この動作を左へ尙三回續ける。

○ねむけもよほす舟の旅——(一)の「のせて過ぎ行く舟の旅。」に同じ。

三

○花のくれなる若葉のみどり。春の大川霞の——一番生と二番生互に向き合ひ、左足右手からチェーンをする。

○中を——圓心に向く。

○七里八里も繪を見る如く——左足を前に踏み出し、両手で舟を漕ぐ様子を四回行ふ。

○過ぎてたのしき舟の旅——(一)の「のせて過ぎ行く舟の旅。」に同じ。

(三)注意

イ、輕快優美な動作で行ふ。

ロ、チェーンに移る所を滑らかに行はせる。

水師營の會見

(一)準備 一列圓形の内面向に並べ、二の番號をかけておく。

(二)動作

一

○旅順開城約成りて、敵の將軍ステッセル、乃木大將と會見の——一、二番生互に向合つて、圓周に沿うてチェインを行ふ。チェインは、各人左足右手から始める。

○所はいづこ、水師營——拍手しながら圓心に向つて四歩進み、四歩後退する。

二

○庭に一本なつめの木、彈丸あともいちじるく、くづれ残れる民屋に——(一)と同様チェインを行ふ。

○いまだ相見る二將軍——出會つた二人で、右手と右手を取つて四回軽く振る。次に左手と左手を取つて、前と同じ動作をする。

三

○乃木大將はおごそかに、御めぐみ深き大君の、大みことのりつたふれば——(一)と同じくチェインを行ふ。

○彼かしこみて、謝しまつる——出會つた二人で、手を腰にして、左足を側に出し次に右足を後にひいてカイツイをする。更に右へ同じ動作をする。

四

○昨日の敵は今日の友、語る言葉もちとけて、我はたゞへつ彼の防備——(一)と同じくチェインを行ふ。